


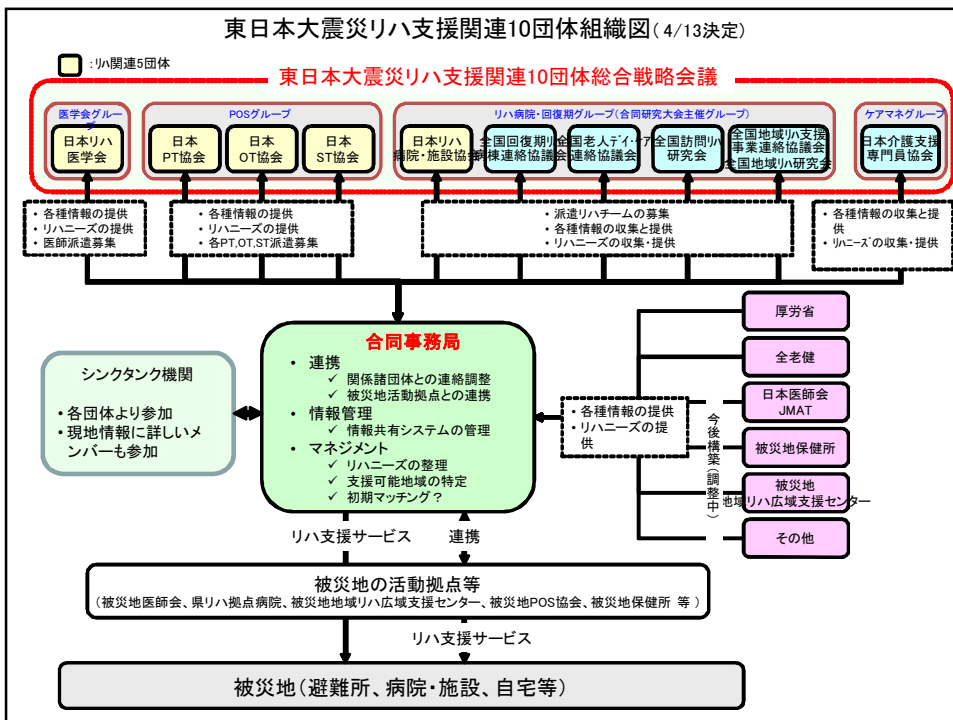
がんばろう！気仙沼

わたしの 地域リハビリテーション ：その思い

救急から地域生活まで



長崎リハビリテーション病院
理事長・院長 栗原 正紀



リハビリ10団体は皆さんを
支援するために結成されました！

地域リハビリテーション

地域リハビリテーションとは、障害のある人々や高齢者およびその家族が住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきとした生活がおくれるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

(2001年、日本リハビリテーション病院・施設協会))



医療は安心した地域生活を支えるためにある！

【1】長崎実地救急医療連絡会

平成4年発足

医師・看護師・救急隊員で結成

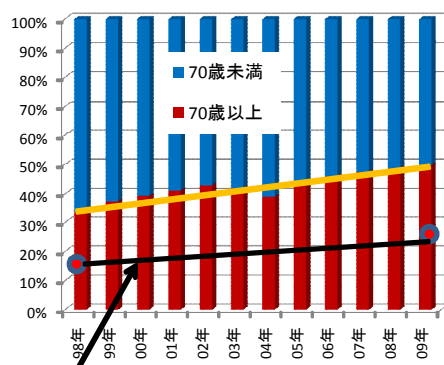
＝背景＝

- ・ 大学に救急医学講座が無い
- ・ 救命救急センターが存在しない
- ・ 救急現場の混沌
- ・ その他

過去12年間の推移と主な救急疾患

(1998年から2009年まで)

高齢者の割合が急増



高齢化率は17%から25%へ

ベスト5

- ①脳卒中
- ②肺炎
- ③虚血性心疾患
- ④大腿骨頸部等骨折
- ⑤消化管出血

誤嚥性肺炎が問題！

参考1

【2】NPO長崎斜面研究会

平成9年発足：
医療・介護職・建築・土木・工学部・行政などの異職種集団

設立趣旨

“どのように年者いても、また障害があっても住み慣れたところでその人らしく安心して暮らせるように支援する”

斜面研究会の実績

- (1) 介護保険サービス
 - ①坂段加算
 - ②斜面地移送サービス事業
- (2) モノレール、リフト設置
- (3) 難病・重度障害者の個別支援
- (4) その他

【3】口から食べることを大切に！
いつまでも人間らしく！

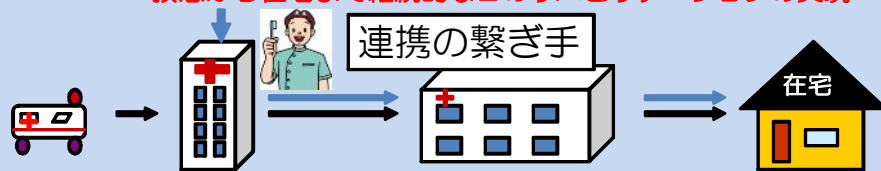
長崎実地救急医療連絡会

長崎市
歯科医師会訪問歯科診療

平成9年

長崎脳卒中等口腔ケア支援システム

救急から在宅まで継続的な口のリハビリテーションの実現



見えてきた
高齢者医療の課題

高齢者の特徴は？

加齢による生理機能の低下に伴う予備能の低下

呼吸循環器機能低下・消化器機能低下・精神活動低下・内分泌機能低下・腎機能低下・運動機能低下・免疫機能低下

・ **低栄養状態** (PEM: 蛋白・エネルギー低栄養)
 ・ 多病性、易感染性、難治性
 ・ 孤立的・抑うつ的・自信喪失・孤独感
 ・ 行動範囲の狭小化

・ 日常生活自立度の低下
 ・ 閉じこもり

入院

②急速に起こる

・ 安静
 ・ 病院環境
 ・ 非個別性
 ・ 薬、処置

廃用症候群

寝たきり

①徐々に起こる

・ 風邪
 ・ 関節の痛み
 ・ 打撲

生活不活発症候群

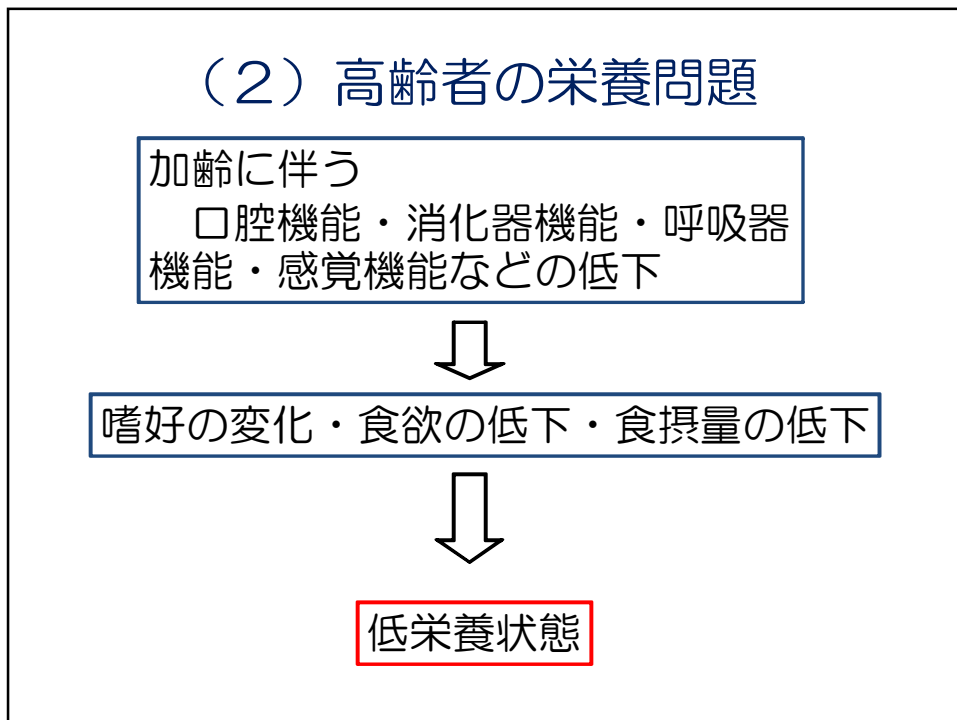
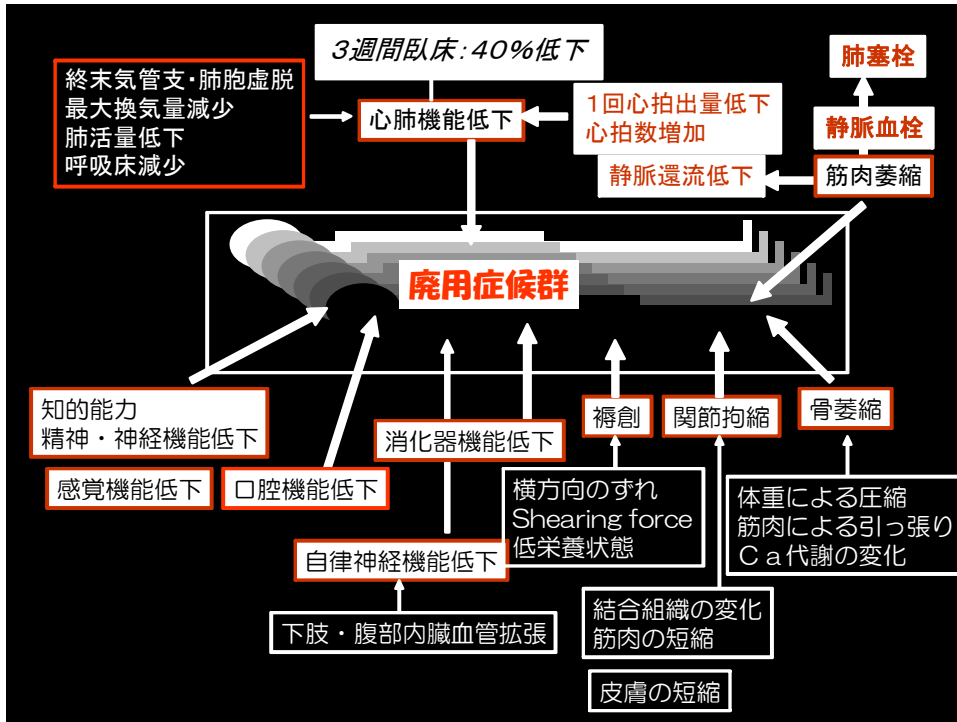
老化に伴う口腔機能の変化

- ① 唾液の量的減少と組成の変化
(フィブロンクチンと分泌型IgAの減少)
- ② 口腔内常在細菌叢の変化 (グラム陰性桿菌の増加)
- ③ 咀嚼力の低下
- ④ 嚥下能力の低下
(高次脳機能、球麻痺、知覚低下、筋力低下など)
- ⑤ 喉頭反射の低下
- ⑥ 咳反射の低下
- ⑦ 喀出効率の低下
- ⑧ 気道ムチンの量的低下
- ⑨ 粘液繊毛輸送系の機能低下
- ⑩ 細胞性免疫反応の減弱

重要

(1) 廃用症候群の問題





高齢者医療の基本課題

高齢者は入院により容易に廃用となり、
入院が長期化して寝たきりになる



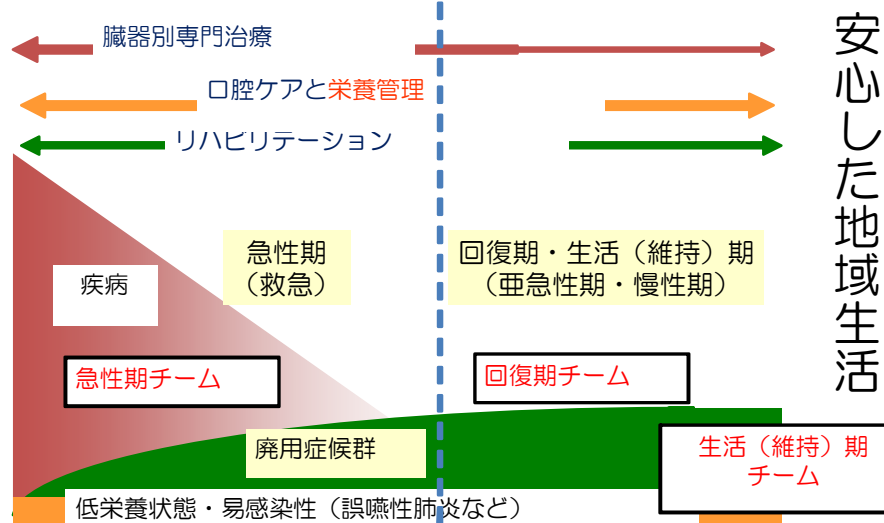
原因の多くは
廃用症候群と低栄養状態
そして合併症（誤嚥性肺炎など）

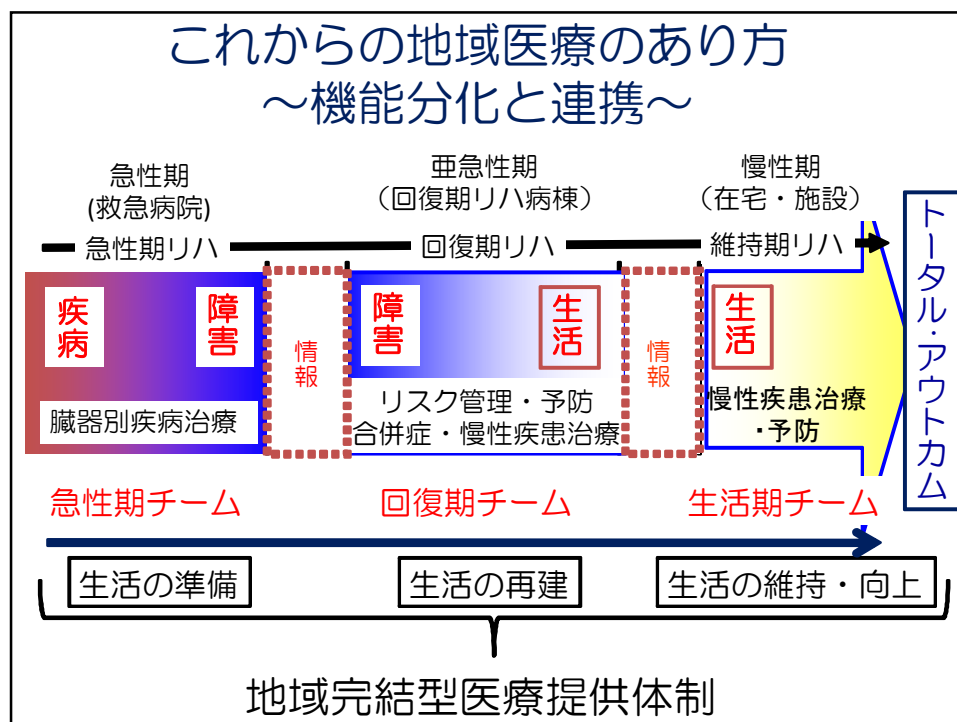


リハビリテーションと栄養管理
（口腔機能の改善・向上）

高齢者医療の体系化

のための基本構造





参考2

まちづくりサポーター養成講座

対象：中学生
地域の元気高齢者

終了後の資格

- ・地域サポーター認定書
- ・ヘルパー3級
- ・心肺蘇生術講習受講書

重要

“口のリハビリテーション”

概念整理

どのような障害があっても、
最後まで人としての尊厳を守り、
「諦めないで口から食べる」
ことを大切にする全ての活動

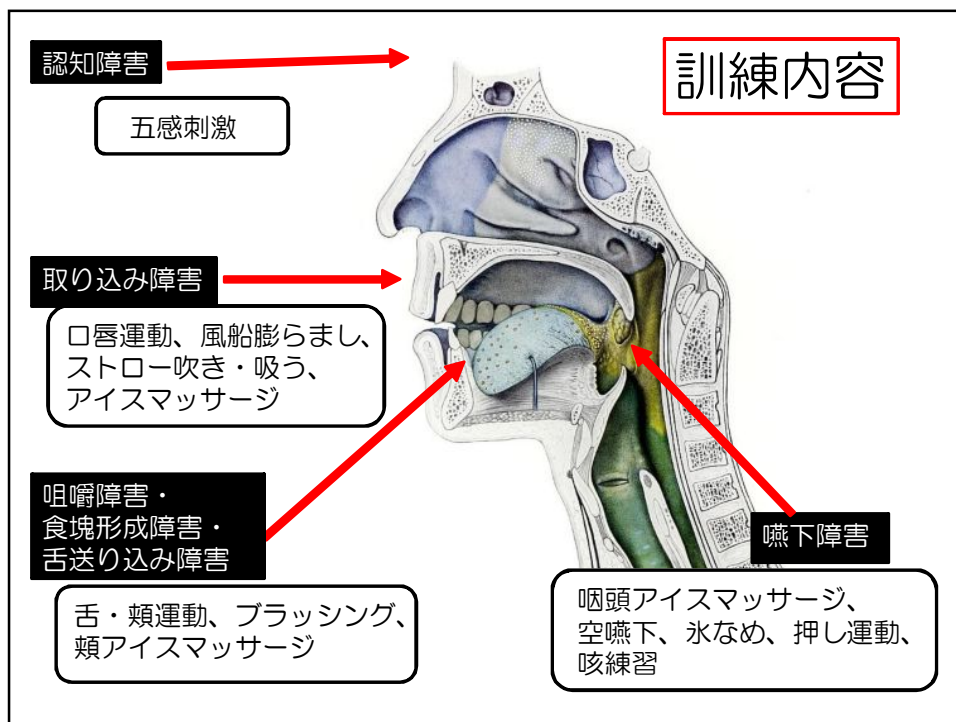
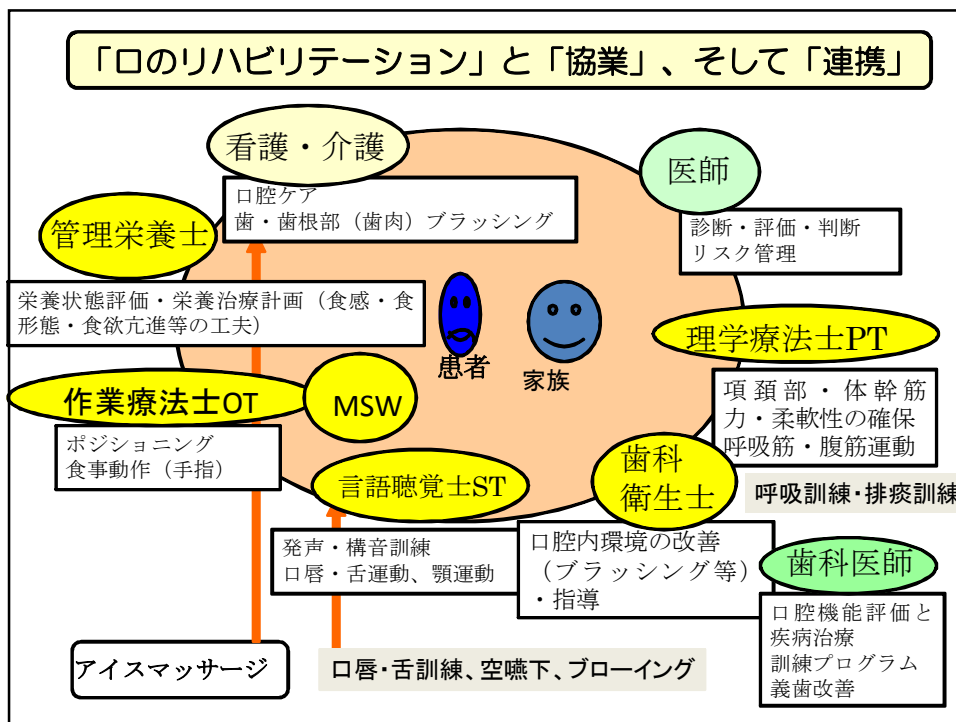
口を臓器ではなく全人的に捉えて表現

人としての尊厳を守る努力をする！

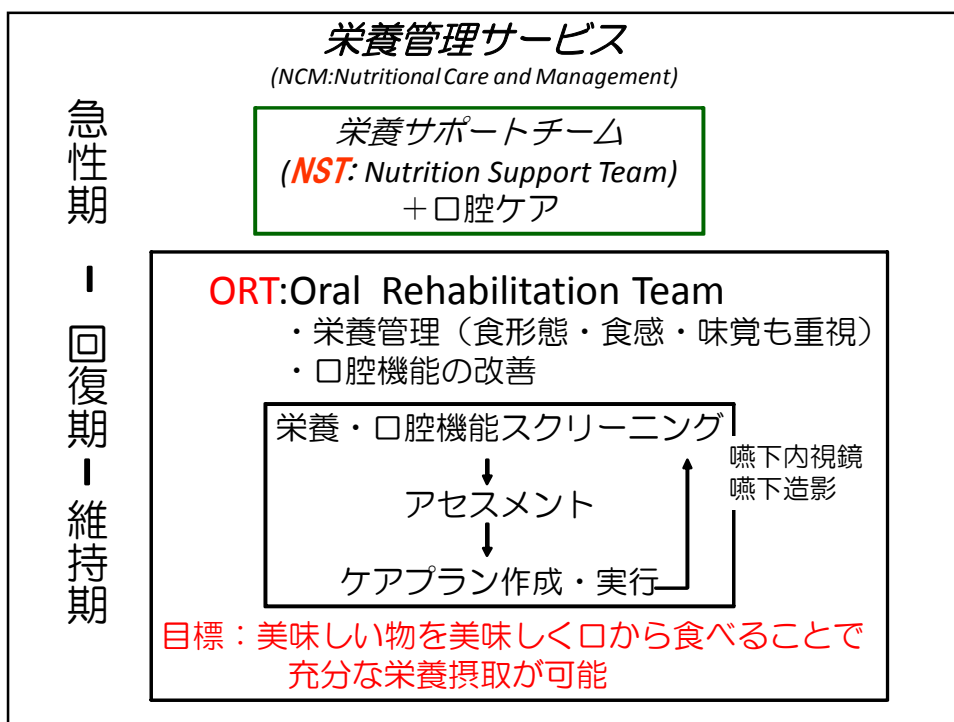
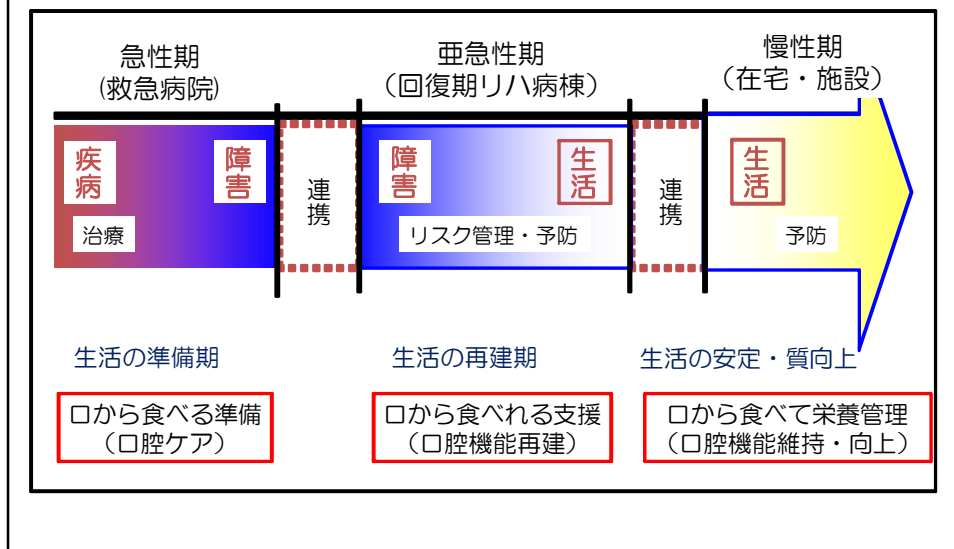
“口のリハビリテーション”

基本方針

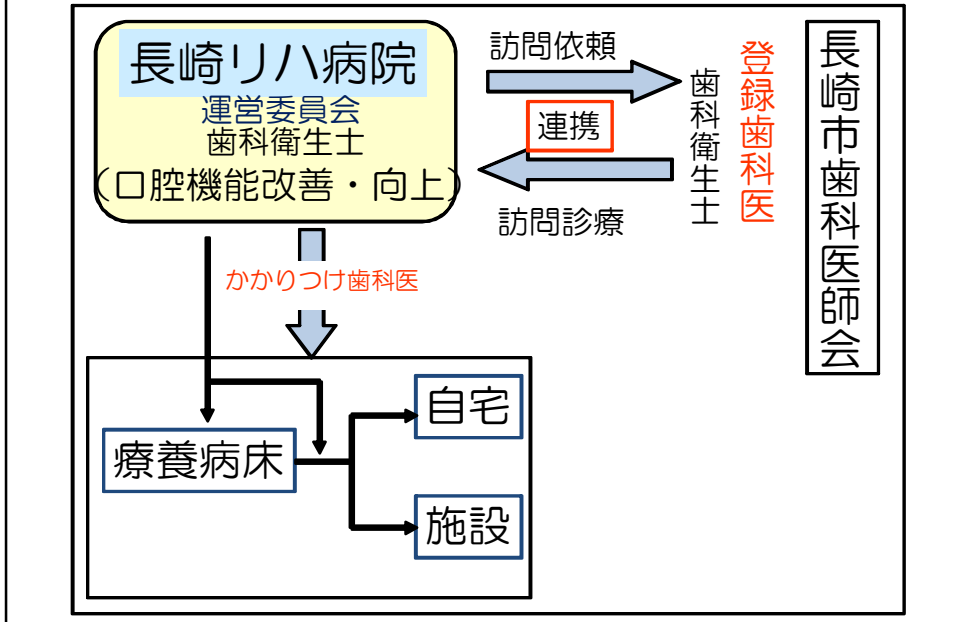
- 口腔の3大機能（呼吸・摂食嚥下・構音）を重視
- ・ 口腔ケアの徹底
 - ・ 栄養管理（NST）
 - ・ 廃用症候群の予防（食事は座位）
 - ・ 徹底したチームアプローチ
 - ・ 救急から在宅まで継続した支援



各ステージにおける視点



参考3 歯科診療オープンシステム



回復期リハから生活（維持）期リハへ

